

いささか旧聞で恐縮だが、以前テレビの「コマーシャルで外国人関取が寝具の寝心地の良さを「寝てみんやわからんて」と宣伝していた。「百聞は一見にしかず」をユーモラスに表現していてなぜか心に残った。

財団で働いていたときにタイの山岳民族でのトイレづくりを支援したことがある。タイのNGO（非政府組織）で働く日本人男性がオフィスに来て熱心に説明してくれたのがきっかけであった。村では放し飼いの黒豚が寄生虫の卵が混じったふん尿を赤土の道端で排せつする。そこを子供たちが裸足で走り回る。寄生虫の幼虫が子供たちの足の指の間から侵入する。今度は子供たちが寄生虫混じりのふん尿を道端に排せつし、それを黒豚が食べる。これが感染サイクルであり、トイレはこの経路を断ち切る手段となる。

しかし、私はこの状況を全く理解できない

「行ってみにゃ…」

AMD A事務局長 近藤 祐次

かった。日本の生活からは想像できないからである。そして数カ月後、私はその山岳民族の村を訪問した。トラックの荷台で土ぼこりにまみれること七時間。標高千メートルの山岳地帯で景色はいいが臭い。暑い。

トラックの荷台から跳び降りた。足元から赤い土ぼこりが舞い上がる。数人の子供たちが近づいて来た。汚れた衣服。あかにもみれた顔。鼻水を垂らし眼病を患っている子もいる。皆、やせ細っている。そして裸足。「なるほど」と、足元に何かを感じた。何と黒豚の親子が十頭ばかり列をなして歩いている。「うーむ、なるほど」

今、AMD Aで発展途上国や戦争被災国へ支援活動を手掛けているが、ともすると計画段階で机上の空論に陥ることがある。そんなとき私はあの山岳民族を思い出してつぶやくのである。「行ってみにゃわからんて」